

総学庶第725号

平成3年11月22日

内閣総理大臣

宮澤 喜 一 殿

日本学術会議会長

近 藤 次 郎

超伝導超大型粒子加速器（SSC）計画について（要望）

標記について、日本学術会議第113回総会の議決に基づき、下記のとおり要望します。

記

我が国の経済力にふさわしい国際貢献を期待する声は各分野で、また、国内外でますます高まりつつある。しかし、今後、我が国が国際社会に積極的に貢献するためには、先進国、発展途上国あるいは近隣諸国との協力を含めて全世界的な視点から我が国の学術の振興を図るべきである。

- 1 学術における国際貢献を有効かつ有意義に実施するためには、我が国自体の研究・教育が第一級の水準にあることが不可欠である。特に、近年悪化した研究・教育環境の抜本的改善なしには、国際学術協力を進めることは極めて困難である。
- 2 一方、最近の学術研究は、国際的性格を強めるとともに大型の予算・人員を必要とするものが少なくない。これに対処するためには、広く世界に開かれた学術協力機構の創設などを早急に検討すべきである。
- 3 現在、我が国が協力を求められている標記のSSC計画については、政府は上記の二点を踏まえて十分に検討すべきである。仮にSSC計画に参加する場合にも、我が国の学術研究予算の充実に優先し、本計画への協力は別枠の予算によるなど適切に対処されるよう要望する。

本信送付先

内閣総理大臣

本信写送付先

内閣官房長官
法務大臣
外務大臣
大蔵大臣
文部大臣
厚生大臣
農林水産大臣
通商産業大臣
運輸大臣
郵政大臣
労働大臣
建設大臣
自治大臣
国家公安委員会委員長
総務庁長官
北海道開発庁長官
防衛庁長官

経済企画庁長官
科学技術庁長官
環境庁長官
沖縄開発庁長官
国土庁長官

日本学術振興会会長
日本私学振興財団理事長
国立大学協会会長
公立大学協会会長
日本私立大学連盟会長
日本私立大学協会会長

経済団体連合会会長
技術同友会代表幹事
駐日米国大使